

# 臨地実習経験が少ない学生からみえた病院の教育体制の課題

○城尾 恵子, 木内 万寿美, 河本 智美 (社会医療法人三栄会ツカザキ病院)

## I. はじめに

近年、長引く少子高齢化の中、生産年齢人口の減少などを背景に産業界での人材不足が顕在化しつつあり、特に医療福祉業（医療、看護、介護、保育）などで人材不足の傾向が強くみられている。A 病院においても 2021 年度に病床数が増床し（406 床）、同時に救急車の受け入れ台数や手術件数の増加によって、看護師確保問題は急務である。

本年度 A 病院に入職した看護師の 38.5% は A 病院の臨地実習経験があり、臨地実習の経験が就職先選択の 1 つでもあることが示唆される。しかし、コロナ禍で臨地実習の制限を余儀なくされた看護学生たちは、将来看護師として働くイメージがつきにくく、リアリティショックを引き起こしてしまい早期離職に繋がる可能性が高い。そこで、臨地実習経験が少ない看護学生の病院選定基準を聞き取り、今後私たちが病院環境をどう改善すべきか課題を明らかにしたいと考えた。

## II. 研究方法

1. 研究対象者：2023 年度 A 病院見学会に参加した看護学生 84 名
2. 研究期間：2023 年 3 月から 2023 年 8 月
3. 内容と方法：A 病院の病院見学会終了後、看護学生にアンケート調査を依頼し協力を得た。

院内で作成したアンケート用紙に記入してもらい、帰宅時に回収した。

調査項目は、A 病院見学会をどこで知ったか、A 病院での実習の有無、病院選定において重視する点・重視しない点、などを聞き取り、得られたデータを記述統計した。

4. 倫理的配慮：得られた情報は個人が特定されないようデータ化し、アンケート用紙への記入をもって同意されたものとする旨を口頭で説明した。

## III. 結果

病院見学会は 3 月 8 日(15 名)、4 月 15 日(29 名)、5 月 6 日(22 名)、5 月 27 日(9 名)、6 月 3 日(5 名)、7 月 22 日（4 名）の 6 日間開催し、参加した看護学生は合計 84 名であった。どこで見学会を知ったかについては、HP（33%）、知っていた（25%）、学校説明会（20%）、親族の紹介（9%）、友人の紹介（8%）で HP が最も多かった。A 病院の臨地実習経験者は 23%（19 名）であった。

病院選定において重視する点では、「1,病院の雰囲気」「2,教育研修体制」「3,看護部の方針」「4,給与・賞与」であった。また病院選定において重視しない点では、「1,知り合いがいるか」「2,家族・先生のすすめ」「3,病院の知名度・評価」「4,看護実習体験」であった。

## IV. 考察

先行研究からは、看護学生が就職先の情報を入手する手段としては「HP」「就職説明会」の他に「実習病院」も上位を占めていた。しかし、臨地実習経験が少ない看護学生にとっては、「実習病院」は病院選定において重視する項目ではなかった。臨地実習は最初に経験するリアリティショックとも言われており、臨地実習を経験せずに病院で勤務することでストレスはより高くなり早期離職に繋がりやすい。看護部全体で現在の学生の現状を共有し、看護師業務のイメージ作りのためのシャドーイングを取り入れ、実践的なシミュレーションを中心に教育計画が必要である。